

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070104082		
法人名	社会福祉法人きしゅう福祉会ささゆり		
事業所名(ユニット名)	グループホームささゆり(南ユニット)		
所在地	和歌山県和歌山市田尻496-4		
自己評価作成日	平成31年2月1日	評価結果市町村受理日	令和元年5月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;Jigvsvocd=3070104082-00&amp;PrefCd=30&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;Jigvsvocd=3070104082-00&amp;PrefCd=30&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成31年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは主要道路から近く、静かで落ち着ける住宅街にあります。目の前には名草山や竈山神社などがあり、鳥が飛来するなど自然豊かな環境で、季節の移り変わりを感じる事ができます。広い敷地の中には家庭菜園をする場所もあり、収穫した野菜を調理して楽しんだり、犬と触れ合う機会があったりと、あたたかく家庭的な雰囲気を大切にしています。お互いを思いやるやさしい心で入居者の立場に立ち、型にはめられない支援を行い、その人らしい個性豊かな生活が送れるよう、そして最後はここに住んでよかったと心より思っていただけのような施設を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ささゆりは、太陽の光をいっぱい受け、周囲はゆったりと視界も拓け、恵まれた自然環境にある。広い敷地は、四季折々の楽しみはもちろん、入居者の外気浴の場としても有効に活用されている。ささゆりという名に相応しく、入居者それぞれの個性を尊重し、温かく豊かな時を過ごしていただけるよう、職員一丸となり親身になっての支援を心がけている。家庭的な雰囲気の中で見た入居者の笑顔からは、快く満たされた日常が窺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、入居者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての入居者の 2. 入居者の2/3くらいが 3. 入居者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 入居者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 入居者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての入居者が 2. 入居者の2/3くらいが 3. 入居者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 入居者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての入居者が 2. 入居者の2/3くらいが 3. 入居者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 入居者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての入居者が 2. 入居者の2/3くらいが 3. 入居者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、入居者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての入居者が 2. 入居者の2/3くらいが 3. 入居者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 入居者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての入居者が 2. 入居者の2/3くらいが 3. 入居者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、入居者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 入居者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての入居者が 2. 入居者の2/3くらいが 3. 入居者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理事長夫婦の介護体験から「ささゆり」の花に寄せた、型にはめられない個別的な介護を目指した理念を作っている。採用時、新任研修、ケア会議等の場で話し合い、理念に基づいた介護が実践できるよう努めている。	時間を惜しまぬ観察により、入居者の心身の状況をしっかりと把握し、それぞれに相応しく、行き届いた介護を心がけている。スタッフも理念をよく理解し、日々原点に立ち返りながら入居者が快く過ごせるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民と挨拶したり会話したりして日常的な付き合いを行っている。非常災害時には声掛けや助け合いを行うなど、地域とのつながりを大切にしている。	近隣から通勤の職員もいるので何かと好都合である。事業所周辺の異変は即近隣が察知し、次に消防署・警察署などに繋がるという連携も出来ており、地域とは安全迅速に対処出来る良好な関係にある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	随時相談を受けたり、家族会、運営推進会議にて、認知症の人の理解や接し方、介護方法などを話して、家族や地域の方々にも認知症高齢者の理解が深められるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2、3ヶ月に1回、参加しやすいように行事の時に開催するようにしている。近隣住民、民生委員、包括支援センターの職員、家族、利用者等の参加があり、活動内容や取り組みを報告し、話し合いを通じてサービスの向上に努めている。	運営推進会議は多数の参加が得られるよう誕生会などの行事に合わせて開催し、入居者も家族の隣に席を設け参加している。毎月発行の「ささゆり便り」やスライドショーにより事業状況等を理解してもらい、話し合いの中で出された意見を更なるサービス向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターや南保健センターの職員とは日頃から連絡を密に取り、市の生活支援課のケースワーカーとは定期訪問時に、それぞれ事業所の現況やサービスの取り組みを伝えたり、相談に応じたり助言を得る等、協力関係を築くよう取り組んでいる。	名草地区連合自治会長、地域包括支援センター、南保健センター職員と連絡を取り合い、介護状況やいろいろな取り組みなどを伝えている。地域の小学生を対象に認知症に関する講話もあり、幅広く協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が研修にて「身体拘束廃止に向けての取り組み」について理解を深め、取り組んでいる。防犯のため玄関の施錠は行っているが、自由な暮らしを支援できるよう取り組んでいる。	安全面で言葉による拘束が予想される場合は、今の状況及び行動の結果を具体的に説明し、入居者の納得を得ている。外出の必要性を感じた場合は職員が同行するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部、内部研修にて、全職員が高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、日頃のケアや言葉遣いなどを常に確認し合いながら、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前に地域福祉権利擁護事業の制度を利用している方がいたので、制度について理解はできている。必要と考えられる利用者がいれば活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には家族はもちろん、本人にもできるだけ見学に来てもらい、双方が不安なく納得して入居していただけるようにしている。退居や改定の際にも、十分な説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者については日常の会話から汲み取ったり、アンケートを実施している。また、家族についても、面会時や運営推進会議にて話し合い、得られた意見を運営に反映させている。施設の外に意見箱も設置している。	意見箱を設置してはいるが、なるべく直接話し合える面会時や運営推進会議を利用し意見、要望を伺うようにしている。入居者については日頃の様子に気を配り、本人の視点に立って気持ちを汲み取るよう心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を行ったり、個別面談等を随時に行い、意見や提案、要望等を十分に聞き、その意見を取り入れたり改善するなど、活かし反映させている。	代表者や管理者は職員がいろいろな面で悩みや問題点を抱え込まないよう、遠慮なく話せるよう気遣っている。担当部署のリーダーがそれぞれの分野で裁量が発揮出来るよう工夫し、相互に好ましい関係が出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々について把握し、個別に応じて仕事内容や労働環境・条件などの整備を行い、常に意欲を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員育成の計画を立て、段階に応じて研修を受講させている。また、外部の様々な研修や講習などの案内を掲示し、希望者が受講できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加するなどして、地域の同業者と交流する機会を持っている。また、姉妹施設を相互に訪問し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まず、ご本人の話に耳を傾け、困っていることや不安な事をよく理解するとともに、アセスメントや情報提供書、センター方式などにより、ニーズや不安、要望等を理解し、安心して過ごせるよう援助している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用まではご家族も不安が多いと思われるので、不安を取り除けるよう、よく話を聴くように努めている。また、センター方式を活用するなどして「家族の思い」を聴き、信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	じっくり話を聴き、本当に必要としているサービスについて検討し支援している。また、必要に応じて他のサービスとの連携も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、職員と利用者が一緒に過ごしながら時間を共有し、喜怒哀楽を共にしたり、お互いを思いやり、家族のような関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	なるべく頻繁に来訪していただいたり行事に参加してもらうなどして、多くの時間を一緒に過ごしていただいている。また、利用者と家族との関係がより良くなるよう支援し、共に支え合う関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで住んでいた家に外泊したり、近所の方の来訪や電話での近況報告、併設するデイサービスを利用しての友人と交流したり等、家族等の協力も得ながら、これまでの関係が途切れないよう支援している。	長年にわたる入居者も多く、家族の協力も得易く、馴染みの人や場との繋がりは良好な関係を保っている。電話以外にも職員が協力しての葉書や手紙の利用もある。また事業所の行事も家族等との交流の重要な場ともなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性や他の利用者との相性などを見極め、トラブルにならないようフォローしたり、助け合い支え合えるよう支援し、よりよい関係が築けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も家族や関係者に本人の状況、これまでのケアの工夫等詳しい情報を提供したり、相談に応じたりしている。また、関係性を大切に、経過をフォローしたり、家族とのお付き合いを継続したりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族との会話の中で、思いや要望を聞き取ったり、アンケートを実施して、把握できるように努めている。また、困難な場合には、本人の視点に立って話し合ったり、家族に聞くなどして、把握に努めている。	聞き取りも徐々に難しくなってきてはいるが、素直な感情表現を見逃さず、職員間で検討した上で可能な限り意向を取り入れたり、対応を見直したりしている。毎日の「気付きノート」も前向きに捉え活用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族等から聞き取ったり、センター方式を活用したり、これまで利用されていた事業所より情報を提供していただくなどして、これまでの暮らしの把握に努め、日頃の介護に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランやセンター方式、ADL等状況書などにより、現状を把握したり、日々の様子や気付き等を個別記録に記入し、職員間で共有したり話し合うなどして、職員全員が把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、医師、職員と話し合い、それぞれの意見や思いを反映し、一人ひとりに合った介護計画を作成している。また、定期的なアセスメント、モニタリングを行い、また状態の変化にも応じ随時見直しをしている。	より快適に過ごしてもらうための課題に向けて関係者それぞれの立場から根気強く取り組んでいる。達成時には入居者共々みんな喜びを分かち合い、意欲的に次のステップに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気付きなど、具体的に個別記録に記入し申し送るなどして、情報を職員全員が共有しながら、ケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な通院や買い物の付き添い・代行など、本人や家族の希望・要望に応じることができるよう心掛けている。また食事については好みや状態などに合わせてメニューや食事形態などを工夫し、細やかな対応をする等個々にあったサービスを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや中学生の職業体験の受け入れを行っている。また近所の薬局と密に連絡を取り合ったり、近くの美容室の訪問があったり、社協主催のふれあい作品展に出品する等、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を聞き、納得している医療機関(これまでのかかりつけ医・協力医療機関等)を選んで受診できるようにしている。また、協力医療機関の内科だけではなく、歯科や眼科、認知症の専門医の往診も実施されている。	これまでのかかりつけ医・医療機関へは家族の協力も得ながら受診している。事業所に於いても熱心な協力医に恵まれ定期的に受診できる。認知症専門医・眼科は定期的、歯科・皮膚科は随時往診で綿密な連絡を取り合って健康を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医に随時相談し日々の健康状態の確認や管理を行ったり、併設しているデイサービスの看護職員に普段の健康管理や観察の視点などを教えてもらうなどして、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、家族や病院関係者と情報交換や相談を行い、早期に退院できるよう、また退院計画や退院後について話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重要事項説明書等に沿って方針やホームでできること、できないことについて説明し、本人や家族の思いを聞き、意向を確認している。また、状況に合わせてその都度家族や主治医、職員で十分に話し合いを進めながら、対応・支援している。	重度化や終末期の指針は作成しており、主治医・家族・職員相互の話し合いの上で対応している。職員も終末期を穏やかに迎え入れ、関係者一同 納得のいく看取りをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えて定期的に研修を行ったり、利用者の状態や状況に応じて随時研修を行っている。また、AEDを設置し、職員が初期対応の訓練を行い、緊急時に実践できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行い、職員だけでなく利用者も一緒に避難して避難場所の確認を行っている。また、運営推進会議で地域の人々や家族と話し合い、食料や毛布などの備蓄、救命衣、防災頭巾等を準備している。	入居者も含めた訓練を昼夜両方の時間帯を想定し、定期的に行っている。地域住民の協力も得易く心強い。事業所は川に隣接しているが水位の調節は迅速になされ、また各種の物品が備蓄され、災害対策は多方面からの配慮が窺える。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者を傷付けたり不穏にさせるような言葉掛けや対応はしていないか、利用者の立場に立ち支援できているかを、日常的に職員同士で確認するよう心掛け、気付いた時にはお互いで注意しあうようになっている。	呼称は入居者の受け入れに応じて苗字または名前によっている。普段から意識するようにしているが、配慮に欠ける対応に気付いた場合は職員相互に注意し合っている。入居者の個人情報については秘密保持を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとり「わかる力」に合わせて説明を行い、思いや希望を伝えてもらったり、自己決定できるように支援している。また、十分に意思表示が出来ない方には、日頃の表情やしぐさ等を観察し、汲み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	折り紙や音楽鑑賞など趣味活動を支援したり、新聞や雑誌を読んだり、お昼寝や散歩、お花の手入れなど、一人ひとりのペースや希望にそって過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員と一緒に衣類をコーディネートしたり、お化粧したりなど、おしゃれが楽しめるよう支援している。また、身だしなみを整えたり、眉や顔剃りの援助をしたりなど、一人ひとりに合わせた支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望や好み等を取り入れながら、畑で採れた旬の野菜を使ったり、季節感が感じられるように工夫している。また、下ごしらえや調理、準備や片付けなどを利用者と一緒にを行い、食事を楽しむことができるよう取り組んでいる。	日頃の会話やアンケートを通して入居者の好みの料理を把握し、献立にいかしている。心尽くしのデザートは食事の楽しみを一層盛り上げている。食事作りは入居者それぞれが相応しい段階で、快く参加できるよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の嗜好を把握し、栄養が偏らないよう支援している。また、疾病や体調、体重の増減、状態などに応じ食事を工夫したり、食器や食事形態を工夫するなど、一人ひとりに応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後うがいや歯みがき等の口腔ケアの支援を行っている。また、義歯は寝る前に洗浄剤にて洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けやトイレ誘導を行っている。またその時々々の状態に合わせてパッドや下着等を使い分けたり、介助方法を工夫しながら、トイレでの排泄と自立に向けた支援を行っている。	パターンをしっかり把握し、失敗にもめげず根気強く取り組む事により、自立への支援が好ましい形でなされている。ひとりひとりに力の向上が見られた場合は、全ての職員がその喜びを共有している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜や水分、乳製品を多く摂ってもらう等飲食物の工夫をしたり、体操など運動が行えるよう働きかけている。また、トイレでの排泄を促し、腹圧をかけたリ腹部マッサージをするなど、予防と対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者一人ひとりの希望や状態と職員の体制を勘案して、時間帯や長さ、回数、入浴方法等、できる限り個々の希望にそえるよう努めている。また、温泉気分を味わえるよう、入浴剤を入れたお湯で足湯を楽しんでもらう機会を作っている。	特に時間帯に希望がある場合は希望に沿うようにしているが、基本的には昼間の入浴としている。時には入浴剤を入れた足湯で温泉気分を味わってもらい、遠出が難しくなってきた入居者に喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	掃除や食事作り、趣味活動等、日中活動の充実に努め、夜間安眠できるよう支援している。また、一人ひとりの状況に合わせて、休息したり落ち着ける場所へ誘導する等支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬箱には服薬シートを貼り、薬の作用や用量を理解して、医師の指示通りに服薬できるよう支援している。また、個別の薬ファイルや服薬チェック表を活用したり、症状の変化の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホーム内で利用者一人ひとりが楽しみごとや出番を見出せるように、園芸、食事の準備、掃除、洗濯たたみ等その人ができることや、折り紙や塗り絵等得意なことや趣味等を楽しんでもらえるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	菜園の手入れや、庭で催す茶話会、洗濯物干し、散歩などを日常的に行い、ホームの中だけで過ごさず戸外に出掛けられるよう支援している。また、夏祭りや芋掘りなどの行事を企画し、家族にも協力してもらって一緒に楽しめるよう支援している。	年中行事としては、家族の協力を得ながら夏祭りや芋掘り等々楽しんでもらっているが、日常的には、広い敷地を利用しての園芸、茶話会や、無理なく動ける範囲内の散歩等々により、なるべく身体を動かしてもらうよう支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の能力に応じてお金を所持し、日常の買い物を楽しんだり、使わなくても自分で持っているだけで安心される方には、家族と話し合っ、その人に合った金銭の額を所持してもらったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	プライバシーに配慮しつつ、自由に電話をしたり、手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間にはソファや畳があり、利用者や職員の手作りの飾り等を飾って、自宅に近い環境で過ごしてもらえるようにしている。また、玄関やフロアには四季の花などを飾り、季節感が出るように工夫している。	共用空間には各自好みのスペースで過ごせるようソファや畳もあり、壁は入居者の作品や職員との共同作品で居心地良く飾られ、随所に季節を感じる工夫がみられる。誰でも参加出来る職員手作りのゲームを楽しむ入居者の笑顔もみられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中に畳の間やソファがあり、利用者が一人になったり、気の合った者同士で語り合ったりなど、自由に過ごせるようにしている。また、ユニット間も自由に行き来し、思い思いの場所で過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談してなじみのある家具や写真、アルバムなど好みのものを持ち込んでいただき、配置にも配慮してその人らしく過ごすことができるよう支援している。	居室ドア・小窓等は磨りガラスにされ、内側からの施錠も出来て、プライバシーが守られている。床暖房も施され快適な寛ぎ空間となっている。好みの調度品も持ち込め、その人らしく個性的な部屋として暮らせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能の状態に合わせて、要所に手すり等を設置したり、使い勝手の工夫をしている。また、居室の表札や目印など混乱や失敗を防ぐ工夫をしている。		